

〔花き類の新品種導入および品種改良〕

ストックの播種時期と生育

椿 眞由己

(園芸部)

【要 約】花壇用ストックの到花日数は、播種日が遅いほど長くなる。7月下旬に比較して8月中旬播種の到花日数は、20～30日長い。同一播種日では、到花日数の品種間差が最大で21日ある。そこで、出荷期に応じて品種と適正な播種時期の組み合わせを提案する。

【目 的】

花壇用のわい性ストックは近年耐寒性のある秋出荷品目として注目されている。しかし、播種時期や品種により年内に開花しない。そこで、播種を7月下旬～8月中旬に行い、八重株について播種時期と品種毎の到花日数等生育を明確にし、出荷期に応じた適正な播種時期を提案する。

【方 法】

供試品種は表1のとおりである。これらの品種を7月27日、8月10日、8月17日に播種し、鉢上げは本葉2枚時に10.5cm黒ポリポットに行った。鉢上用土は赤土：腐葉土：ピートモス＝5：3：2（容積比）、基肥として用土100ℓあたりN58g、P₂O₅158g、K₂O54gを緩効性肥料および過リン酸石灰により施用した。栽培は慣行法に従った。生育調査を表のとおり行った。

【成果の概要】

- 1) 播種日ごとの到花日数は、供試した全品種ともに播種日が遅いほど多く（図1）、7月下旬と8月上旬播種より8月上旬と中旬播種において差が大きかった。同一品種内で最大約30日の差があった。
- 2) 同一播種日の到花日数は品種により異なり、ビンテージシリーズよりキスミーシリーズが短く、最大で品種間差が21日認められた（図1）。
- 3) 到花日の株高（株の花序下までの高さ）は、品種間差がありキスミーシリーズよりビンテージシリーズにおいて7月下旬播種で高く、播種日が遅いほど、両者の差は小さい傾向があった（表1）。
- 4) 播種日と開花節位、花径、花弁数、分枝数、小花数には明確な関係は認められなかった（データ省略）。品種間差については、主茎の小花数は‘ビンテージ カッパー’で他の品種より少なかった（表1）
- 5) まとめ：花壇用ストックの到花日数は、播種日が遅いほど長くなり同一品種の到花日数は最大で30日の差があった。特に8月上旬と中旬播種では到花日数の差が大きく、留意する必要がある。また、到花日数は品種間差が最大で21日あり、異なる品種を組み合わせる場合には品種間差を考慮する必要がある。

図2に2003年試験結果をふまえて、栽培例を示した。例として、10月中旬出荷を目指す場合の播種時期は、ビンテージシリーズでは7月下旬頃、キスミーシリーズでは8月上旬頃が適する。

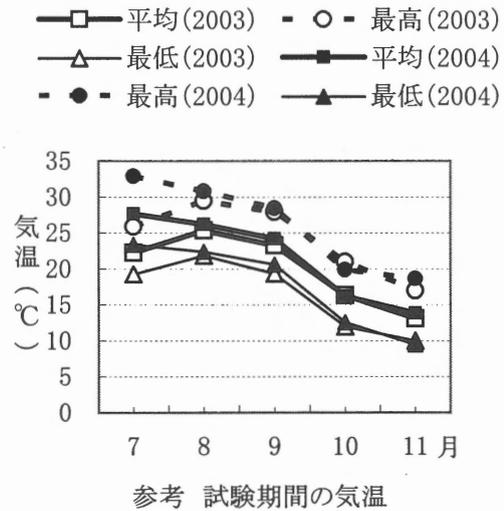
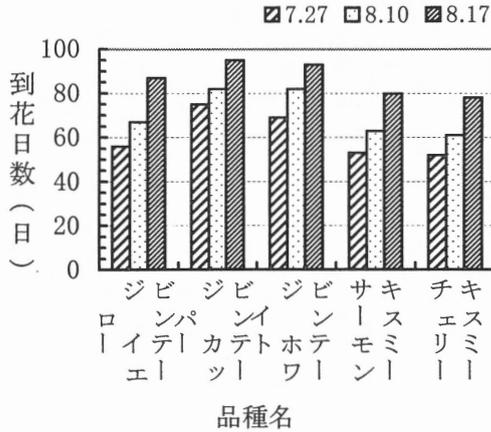


図1 花壇用わい性ストックの播種日と到花日数
注)2004年調査。

表1 花壇用わい性ストックの播種日と生育

品種名	草丈(cm)			主茎花数		
	7/27播種 ^{a)}	8/10播種	8/17播種	7/27播種	8/10播種	8/17播種
ビンテージ イエロー	23(±2) ^{b)}	29(±2)	33(±2)	32(±2)	28(±2)	22(±5)
ビンテージ カッパー	26(±3)	29(±3)	26(±3)	20(±3)	20(±4)	16(±5)
ビンテージ ホワイト	25(±3)	33(±4)	29(±1)	23(±6)	21(±3)	22(±3)
キスミー サーモン	20(±1)	24(±2)	27(±2)	28(±3)	25(±4)	29(±2)
キスミー チェリー	17(±1)	19(±2)	24(±1)	25(±3)	28(±4)	22(±2)

a) 播種は2004年, 月/日, b) ()は標準偏差値。

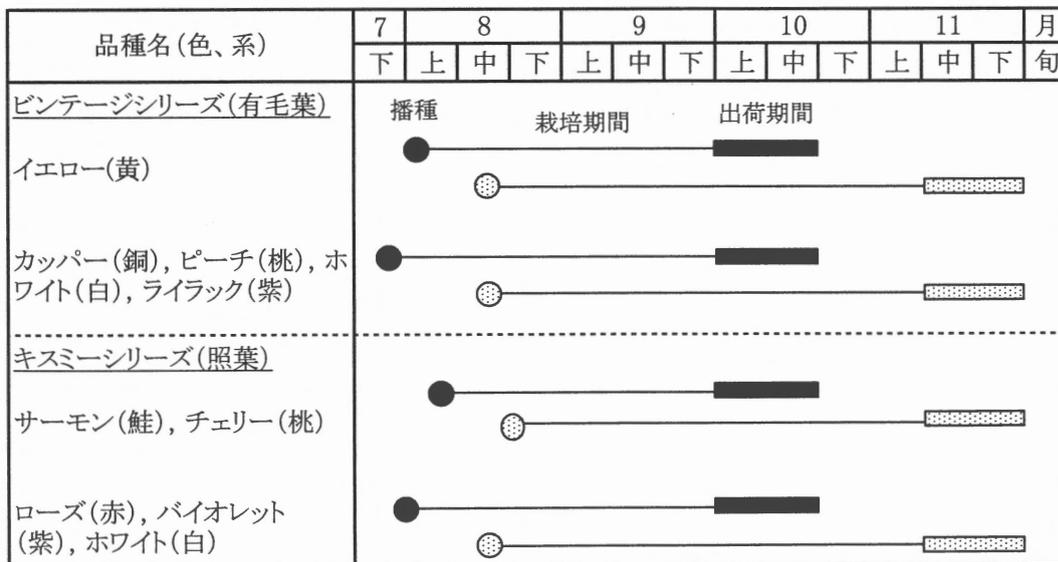


図2 色合わせのための栽培例

注)2003年結果含む。出荷期間は小花が1輪咲いた時点からとした。